

コラム 「道路メンテナンス技術集団」による「直轄診断」

道路の老朽化対策に関しては、多くの施設を管理している地方公共団体に対して、財政面、技術面等でこれまで以上の支援が求められています。「橋梁、トンネル等の道路施設については、各道路管理者が責任を持って管理する」という原則の下、それでもなお、地方公共団体の技術力等に鑑みて支援が必要なもの（複雑な構造を有するもの、損傷の度合いが著しいもの、社会的に重要なもの等）に限り、国が地方整備局の職員等で構成する「道路メンテナンス技術集団」を派遣し、技術的な助言を行う「直轄診断」について、国土交通省は、平成26年9月に全国3橋梁（表-1）で試行することを発表しました。土木研究所は、国土技術政策総合研究所とともに「道路メンテナンス技術集団」の一員として現地に赴き、技術的支援を行いました。

このうち、三島大橋については、平成26年9月末に診断に必要な情報を得るための現地調査が実施されました。同橋は昭和50年に建設された橋長131mのアーチ橋で、過去に高力ボルトの落下事象が発生した後、管理者においてボルト損傷に着目した点検調査が行われ、損傷ボルトの交換が実施されてきましたが、その後も損傷が継続的に発生している状況でした。当日は橋梁点検車や高所作業車等を使い、近接目視やハンマーでの打診等によりボルトの状況を確認する等、同橋の劣化・損傷の状況について調査を行い、三島町長へ現地調査結果の報告がなされました。

3橋の直轄診断結果については、平成27年1月に各道路メンテナンス技術集団から各町村に報告されました。

表-1 直轄診断対象橋梁（国土交通省HPより抜粋）

県名	町村名	路線名	橋梁名	建設年	延長(m)	緊急性・高度な技術力の必要性 (町村での点検結果より)
福島県	みしままち 三島町	町道 みやしたないり 宮下名入線	みしまおほし 三島大橋	昭和50年	131	大規模アーチ橋で多数のボルト破壊が進行しており、早急に全てのボルト交換が必要
群馬県	つまごいむら 嬬恋村	村道 おおまえほそぼら 大前細原線	おおまえほし 大前橋	昭和33年	73	建設後50年以上が経過した施工方法等の詳細が不明なコンクリート橋であり、主桁等に大きな損傷が見られる
高知県	によどがわちよう 仁淀川町	町道 によどあがわ 仁淀吾川線	おおど おおほし 大渡ダム大橋	昭和58年	444	高度な専門技術が求められる吊り橋で、健全性に大きな影響をもつ主桁接合部などで損傷が散見



写真-1
ボルトの確認状況



写真-2
現地調査結果の報告（一番右は土木研究所職員）